

回文かるた

 あいえ
 むえすいす
 えむえいあゆ

ゆ

first message from ISOS



minami



YOUR EMS IS O (MARU) !

新しい認証世代が出て来ている。最近の新規認証事例を取材していると、数年前では想像もできなかった取り組みに出会うことがある。

例えば、品質と環境の統合審査を受審した建設会社・姫野組は、「品質側面」という考え方を導入している。製品品質に影響を与える要素を品質側面とし、環境側面の扱いと同様に、品質側面の洗い出しを行い、重要な品質側面を特定し、そこから目的・目標を導き出すというISO 14001の手法を品質にも当てはめた。これによりISO 9001:2000とISO 14001とを統一した考え方で運用管理することができるようになったそうだ。このように「側面」でとらえる手法は、OHSMSやISMSにも適用できそうである。

もう1つのユニークな取り組みは、プラスチック金型用鋼を制作している日本金型材の認証事例。この会社では、とにかく経営に役立つツールとしてISO 14001を使うことが目的なので、環境目的に「不良品発生の低減」や「業務効率の改善」なども含まれている。通常は品質系の目的として設定される項目だが、「不良品が減ったり、業務効率が改善されると、結果として環境負荷低減につながるわけだから」という誠にふてぶてしい理由で環境目的に入れている。「環境」にこだわらない新世代の登場である。

両者に共通しているのは、EMSのモデルで品質も運用しているということだ。「EMSのモデルなのだから環境しか扱ってはいけない」という常識を超えている。こういう事例が登場すると、「そうか、別にEMSのモデルで品質を運用してもいいのだ」と読者の方々も思うだろう。そう、別にいいのである。